



# 東 俣 野 7月号

東俣野小学校 学校だより 平成29年6月30日

## 大切にしたい食育

校長 村田 幹男

今年度の「健康教育」の取組で、力を入れていきたいことは「食育」です。偏食等による給食の残りをもう少し減らしたい、給食当番活動にすすんで取り組んでもらいたい、食事のマナーも知ってもらいたいと考えています。この目標を目指して、6月はいくつかの取組を行いました。

15日には、朝全校テレビ放送で、金子栄養士が本校給食の残菜の量や傾向について伝え、続いて「よくかんで食べることの大切さ」が分かるDVDを視聴しました。この放送を見て、各クラスで、今年の給食の目標を決めました。

そして28日には、学校保健委員会を開催し、クラス目標の発表と「日本の食文化である『箸』のすばらしさや正しい箸の使い方」について学びました。

皆さんご存じのように、箸は我が国で1300年以上前から使われている道具であり、「つかむ」「すくう」「切る」「ほぐす」といったさまざまな機能があります。しかし、正しい持ち方をしないと、それらの機能が十分に生かせず、スムーズに食事をすすめることができません。また、箸を正しく持っている見た目にも美しく、気持ちがよいものです。昔から受け継がれてきた、箸の持ち方をきちんと身に付けて次の世代へと受け継いでいってほしいと思います。

30年ほど前、私が所属していた研究会で、関東甲信越各地区約6000人の子どもを実技調査した結果では、小学生で箸が正しく持てる割合は2割程度でした。今もその割合はさほど増えていないと聞きます。鉛筆を正しく持てる割合はもっと少ない結果です。上箸の持ち方は鉛筆の持ち方と同じですから、箸の持ち方をマスターさせるときに、関連させて教えていけばいいと思います。鉛筆も正しい持ち方が、書いていて一番疲れないそうです。

えらそうなことを言っている私も、実はこの研究会に入るまで、箸は正しく持てていませんでした。しかし、直そうと頑張って練習してみたところ、1か月で直せました。箸や鉛筆が正しく持てていない方は、この機会にチャレンジしてみてもいいのではないでしょうか。

